

第6期第11、12回詳報

聴覚障害情報届かず

救助多様な備え不可欠

311 伝える／備える 次世代塾

東日本大震災の伝承と防

災の担い手育成を目的に、

送を繰り返した。

被災翌日から仙台東部道

路東側の地域で、ヘリコプ

ターによる救助活動に従

事。乳幼児をつり上げた際

「311」伝える／備

える」次世代塾」第6期は

12日、第11、12回講座を仙

台市宮城野区の東北福祉大

仙台駅東口キャンパスで開

いた。「被災の現場」をテ

ーマに仙台市太白消防署消

防司令補の小野寺修さん

(48)、宮城県聴覚支援学校

宮ろう同窓会会長の渡辺征

二さん(82)が大学生ら約70

人に講話した。

小野寺さんは震災当時、

仙台市若林消防署の荒浜航

空分署に勤務。発生当日は

津波浸水域で徒歩とボート

で救助に当たり、がれきが

浮く背丈ほどの水の中を、

ロープを使って被災者の搬

送を繰り返した。

震災翌日から仙台東部道

路東側の地域で、ヘリコプ

ターによる救助活動に従

事。乳幼児をつり上げた際

は「道員がなく、大人用を

工夫して使えるようにし

た。現場では臨機応変の対

応が必要だ」と述べた。

低体温症で亡くなった人

が多いことに触れ「多様な

備えが大事。時期や気温、

天候を考えて備える意識を

持つてほしい」と指摘。震

災11年を経て「震災を体験

した職員が4割を切り、経

験を若手に伝えている。皆

さんも学んだことを伝えて

ほしい」と訴えた。

渡辺さんは震災後に描き

ためたイラストをスクリー

ンに映しながら手話で被災

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者

者



◎災害発生後の救助活動や、備えの心構えなどについて説明する小野寺さん ◎津波被災体験や情報が得られなくて困ったことなどを手話で振り返った渡辺さん=12日、仙台市宮城野区の東北福祉大仙台駅東口キャンパス

体験を振り返り、みやぎ通
訊派遣センターの通訳者が
口頭で伝えた。
名取市閉上の自宅で大き
な揺れに遭った後、耳が聞
こえない渡辺さんは「何度
も外に出て住民や通行人に
状況を尋ねたが、情報を得
られなかった」と説明。地
震発生後の1時間後、近所に
住んでいる兄が「津波が来
る！早く逃げろ！」と駆
け込んできたため、兄の車
に乗って津波に追われなが
ら避難した。
築8年の自宅は津波で流
失。市内の親戚宅に身を寄
せた後、仮設住宅に入居し
た。「役所には手話通訳が
いなかった。罹災証明も内
容が分からず申請できな
かった」と言う。市に要望を
繰り返して、6月末にようや
く通訳者が配置された。
渡辺さんは「震災後は情
報が入らずつらかった。ろ
う者は情報が乏しい中で生
きてきたことを理解してほ
しい」と訴えた。

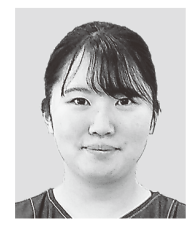
受講生の声

臨機応変さ大切

震災発生直後の現場で救
助と捜索に当たった小野寺
さんの話を聞き、災害時は
日頃の備えと臨機応変の対
応が必要と学びました。将
来は消防士を目指していま
す。学んだことを生かすほ
か、避難場所の確認など身
近な備えにも取り組み、地
域の役に立ちたい。
(仙台市青葉区・東北福祉
大1年・菊池裕翔さん・19
歳)

想像を広げ支援

聴覚障害者の渡辺征二さ
んが震災で大変な困難を抱
えたこと知りました。筆記員
で情報を伝えるなど、想像
を膨らませることが支援に
つながります。来春、小学
校の教員になる予定です。
防災教育に取り組み、耳が
聞こえない人の困難や支援
方法も子どもに伝えたい。
(宮城県七ヶ浜町・宮城学
院女子大4年・赤間あやさ
ん・22歳)



× 311「伝える／備える」次世代塾を運営する推進協議会の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、宮城大、仙台大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。